

## 春の道端で野生の草花を楽しむ

兵庫県立大学教授 高橋 晃

春は野の植物を観察する絶好の季節です。たくさんの種類の草花が花を咲かせるとともに、よく似た仲間どうしの植物が同時期に咲くので、その特徴の違いに注目して複数の植物の名前をおぼえるのによい機会です。

代表的な春の花としてまずあげられるタンポポを見てみましょう。タンポポには昔から関西地域に生えているカンサイタンポポと、ヨーロッパ原産のセイヨウタンポポがほ



とんど同じ場所で見られます。慣れてくれば、ゴツイ感じのセイヨウタンポポと、やさしい感じのカンサイタンポポは一目で違いがわかりますが、確実に比べるために花を裏返してみます。

花の基部にある緑色の部分（総苞という）が開花時に反り返っていればセイヨウタンポポ、反り返らずすんなりしていればカンサイタンポポです。

タンポポよりすこし早い時期に、雑草が伸びだす前の地面をおおうように、オオイヌノフグリがきれいな青色の花を群生させることがあります。この植物は花にだけ目がいきがちですが、茎を1本引き抜いてみると、長い茎が地面をはうように広がっていることがわかります。その茎に交

互についている葉の基部からやや長く細い柄が出て、その先に花をつけます。これに対して茎が直立するタチイヌノフグリがあります。こちらの花は大きさがオオイヌノフグリの半分以下で、しかも葉の付け根で小さく咲くのでほとんど目立ちませんが、花をルーペで観察



すると同じ形をしているのがわかり感動します。

春の植物の代表の一つであるスマリの仲間では、濃紫色の花が根際から立ち上がるスマリと、淡紫色の花が地上の茎から立ち上がっているタチツボスマリを見分けたいものです。タチツボスマリによく似ているが、葉が三角状に伸びるナガバタチツボスマリも同じような場所によく見られます。

4月後半から5月になるとカラスノエンドウ（ヤハズエンドウともいう）が目立ってきます。これはエンドウに似た1cmほどの小さな花を咲かせますが、色が赤紫色なので草むらの中でも比較的よく目立ちます。これと同じ仲間にはスズメノエンドウという、全体にたいへん小型のものがあります。こちらはほとんど目立ちませんが、かわいい豆果をつけるので探してみてください。カラスノエンドウの豆果には5-10個の種子が入っていますが、スズメノエンドウの種子は2個だけです。ほかに両者の中間的な大きさで、4個前後の種子が入った豆果をつけるカスマグサ（カラスとスズメの間の草という意味）というものもあり、三つを一緒におぼえることができます。



いたるところに生えるハコベは類似の仲間が多く、茎の下部の葉に柄があるハコベと柄のないノミノフスマ、花弁が2片に裂けているハコベと裂けていないノミノツツリ、めしべが3本に分かれているハコベと5本のツメクサやミニナグサというような具合です。このように仲間が多いとおぼえられなくなりますので、端的な違いだけを取り上げて2種かせいぜい3種の比較をするとよいでしょう。ハンドブック片手に道端の草花を探しながら歩いてみましょう。

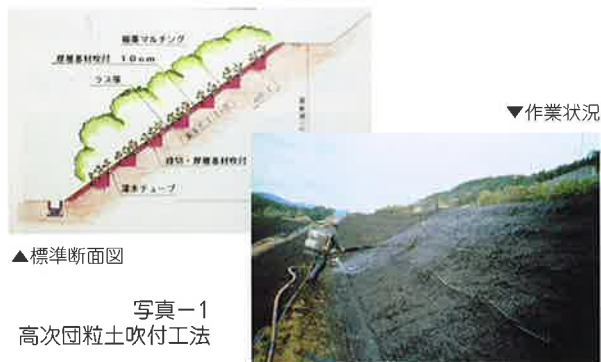
# 生きた土と木【第2回】

三木土木事務所・課長 井上 芳一

ジャパンフローラ2000から6年の歳月が流れ、淡路夢舞台や国営明石海峡公園が土取り跡地であったことや、西にそびえる斜面に成長する森は、わずか30cmの苗木を10年ほど前に植えたものであることを忘れてしまいそうです。この岩盤斜面地緑化事業は、阪神淡路大震災直前の1994年12月に着工し、2000年3月に完成しましたが、12haもの広大な岩盤斜面地に、6年間という短期間に森を造ろうという無謀とも言える試みでした。ジャパンフローラ2000開催時には、25万本の苗木は遠目にも森と見まがうばかりに成長して花博会場の緑の背景を形成し、荒廃地における緑再生・復元のモデル事業として高い評価を受けました。高密度の樹木の安定や生長の限界、間伐などの維持管理など、課題や話題がつきないことから樹木に目を奪われがちですが、工事費で見ると苗木を植えた植栽工は全体工事費の1割強にすぎません。多くの工事費は樹木が生長するために必要な土壌環境（植栽基盤）を作り出すために使われています。

人為的に切り取った急峻な岩盤斜面上に、樹木の成長を促し安定な植栽基盤を造るために、大きく分けて三つの工法、

①やや風化が進んでいる上部の岩盤斜面では、バックホーにより斜面を巾30cm程の階段状に掘削して、人工土壌（高次団粒土）を表層部に10cmの厚みに吹き付ける高次団粒土吹付工法（写真-1）

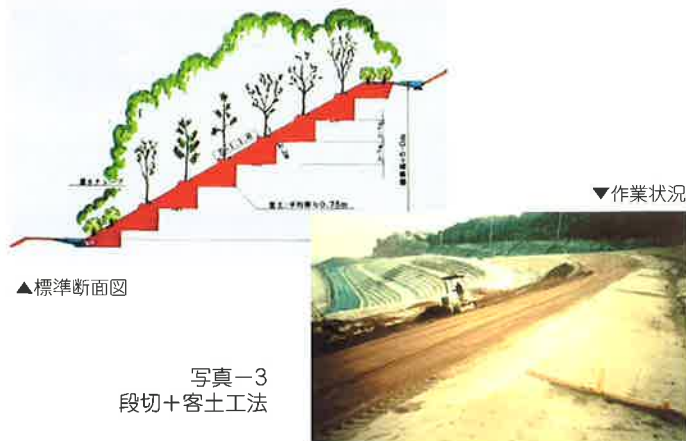


②中段から下の硬い岩盤斜面では、鉄筋のアンカーとメッシュリグやジオテキスタイルを使った、厚さ30cmの軽量法枠に淡路産の真砂土に土壌改良を行った植栽土を客土する、軽量法枠+客土工法（写真-2）



③再造成を行う場所では、30度より緩い斜面とし、段切りにより客土の安定と植栽基盤の厚み60cmを確保する、

段切+客土工法（写真-3）が使われています。



植栽に当たっては、高さ30cm程の苗を3~4本/m<sup>2</sup>の高い密度で植え、成長の早い落葉樹の下で将来の景観構成種となる常緑樹が育つ複層林の形成を目指しています。これは、植生遷移の途中段階である常落混交林を早期に育て上げ、将来はウバメガシやヤマモモに代表される常緑樹林への自然遷移を待つという手法です。植栽された代表的な樹種と構成比は表-1の通りです。

表-1 植栽樹種とその構成

種別	樹種	構成比(%)
目標景観構成種 (55%)	ウバメガシ	20
	ヤマモモ	15
	タブノキ	9
	ヒメユズリハ	7
	ヤブニッケイ	5
早期緑量確保種 (44%)	アキニレ	4
	エノキ	18
	クロマツ	14
	コナラ	4
	ネムノギ	4

淡路夢舞台における自然再生を目指した岩盤斜面地緑化事業は、土と木に注目すると岩盤斜面地における植栽基盤造成事業と言うことが出来ます。「木を見て森を見ず」という諺がありますが、造園事業では「木を見て土を考える」事が大切です。なぜなら、植物が健全に育つためには健全で必要十分な量の土壌が必要だからです。健全な土壌とは、植物の根が容易に伸び、根を傷める有害物を含んでおらず、必要とする水分と養分と酸素を過不足無く供給出来る生きた土であることです。必要十分な量とは、樹木が生育に最低限必要な量と生育目標を達成するための量の内大きな方の値です。淡路夢舞台における岩盤斜面地の緑化事業では、その必要十分な量として30cmを採用しましたが、結論が出るにはまだ時間が必要なようです。

高密度で植えられた苗木の成長はすさまじいばかりで、成長が遅いと考えられていた常緑樹の苗木も、落葉樹に負けない成長を見せました。教育基本法改正が社会的な問題となっている昨今ですが、こうした苗木の生長を見て、「適度な競争状態に置くことは成長にとって有意義では？」とか「促成栽培でモヤシ子とならないのか？」、などと自分の子供みたいに論議したものでした。

公園に植えられた1本の木には、苗木として育てた人や植えた人、その足下にある土にも人の思いが込められているかもしれません。公園を訪れたときに大きく成長した木を見つけたら、その木の周りの土も観察してみてください。「土も木と一緒に生きている。その土を生かしている微生物や小動物が住んでいるのでは？」と見ると、また違った世界が見えて来ると思います。

## レバノン杉

所長 村田 光平

都市と文明を語る時、そこに森林が深く横たわっている。「神が農村を作り、人が都市を作った」とされるように、都市は、人が原野や森林を切り拓き技術や知恵を集積した形であるが、そもそも余剰農産物がなければ存続し得ない。それ故に、都市は余剰農産物を産み出す文明に依存するが、文明も自らが発展し続けるには豊かな森林と水、それに森林と一体となった拠点都市群が不可欠であった。このことは文明の発展に伴い、都市周辺の森林からの収奪が激しくなって森林が荒廃し始めると、それによって支えられていた都市も衰退し、やがて消滅していく関係に如実に示されており、メソポタミアを始め古代の文明都市は実によく似たプロセスを辿っている。「文明の前に森林あり、文明の後に砂漠あり」、「巨木なきところに巨大文明発展し得ず、巨大都市に巨木は残らず」等々の先人の言葉が迫り来る。

この都市と文明の関係を象徴するものとしてレバノン杉の森がある。レバノン杉の森は、かつては樹高40～50mのものが地中海の東側一帯に繁茂し、幾多の権力がそれに頼ったことは歴史に詳しい。材が優良なことから船や建造物に濫用されたが、当時、レバノン杉を扱うことは一つの巨大産業となっており、最盛時には、3万人の伐採人夫と7万人の運搬人夫が従事していたとされている。しかし、収奪され尽くしたレバノン杉の森の消滅とともにメソポタミア文明は終焉を告げた。レバノン杉の森は、現在、絶滅寸前にあり、樹勢回復を図るために日本からも支援活動を行っている。



樹木の乱伐が表土の流失をもたらし森林を荒廃させたが、森への家畜の放牧も森林荒廃の大きい原因となっており、特にヒツジは草等を地際まで食い尽くすことから、雨の少ない地域では森林は回復不能なまでの打撃を受けた。裸地になった山々からは、土砂が都市の河川に流れ込み絶えず浚渫が必要となったが、それが追いつかなくなり浚渫を放棄すれば、たちまち帯水のために土地の塩分濃度が上昇し、最後には塩分に強い大麦さえも栽培できなくなるとされている。

森林裸地化はヨーロッパでも見られた。人間を動植物よりも上位に据えたキリスト教文明圏では、自然(樹林)を大切にするという意識が希薄であったことから、それ

までのブナ、ミズナラの森林が破壊され、約200年前のヨーロッパは見渡す限り一面ステップ(乾燥草原)化している。ゲルマン系民族がいち早く原因に気づき「林内放牧の禁止」等を徹底して森林の復元を図っているが、今、ヨーロッパが声高に自然保護を掲げるのも、森林の裸地化という地獄を知見したことが大きな契機であることは論を待たない。

日本でも裸地化の姿を近畿域内に見ることが出来る。琵琶湖東南にある田上山(たなかみやま)一帯は、かつて見事なヒノキ等が繁茂していたが、平城京の造営等に巨木が乱伐されて荒廃し、將軍綱吉の頃に既に砂防工事を始めている。六甲山も禿げ山から回復した。秀吉が六甲山系から御影石を大量に切り出した際に、協力者に「伐り出し勝手」の特典を与えたために急激に荒廃しており、明治35年には修復に乗り出している。その頃の築城等に際しては幾内だけでは調達できず、屋久島に残るウィルソン株(推定樹齢3,000年)は、秀吉の命により、京都方向寺建立のために伐採されたものである。

しかし、これまで日本各地でかなり乱伐されてきたにも拘わらず、日本には森林が多く残っている。その要因として、国(藩)の保護政策、雨が多く地形が急峻であったこと等々いくつも挙げられているが、根底には次の二つの事由が大きく作用したとされている。ひとつは農業の輸入が遅かったために、森林と一体となった生活を営んだ縄文人の時代が長く続いたことであり、もうひとつは紀元前300年頃に伝搬した農業が、牧畜を伴わない稲作であったことである。

ところで、レバノン杉はギルガメッシュ叙事詩との関係が深い。叙事詩ではメソポタミアのギルガメッシュ王がレバノン杉を伐り出すために森に入るが、森の守護神フンババの激しい抵抗に会い、同行した友人が守護神を殺害して森を伐採するくだりは、都市文明の展開が森林の破壊と軌を一にしていることを象徴している。また、レバノン杉は「ノアの箱舟」を作った樹木とされ、旧約聖書には敬虔なノアを助けようと箱舟を作らせて大洪水の難から逃れる話があるが、ギルガメッシュ叙事詩にも、そっくりな内容が載っており、聖書の存在が相対化されたということで、叙事詩の発見は極めて衝撃的であったとされている。



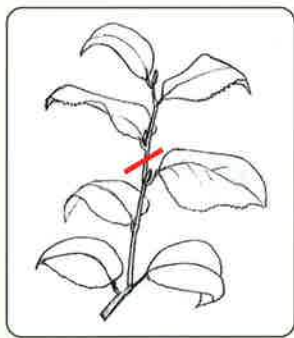
# Q & A

相談員 福本 誠

## 1. ツバキの花後の剪定

**Q** ツバキの花つきがよくありません。枝も細く、樹勢も弱っています。樹形を整え、花を咲かせたいのですが、剪定方法を教えてください。

**A** 春咲きのツツジやアジサイなどの花木の多くは、花後に伸びた新梢に夏ごろ翌春の花芽をつけます。ツバキもそのひとつですが、花芽分化の時期が6月からやや早いので、花後の剪定は3月から4月に開花後すぐに葉を3~4枚残して葉芽(タケノコ状にとがっている)の5mm上で切ります。剪定後に伸びた枝に6~7月頃花芽がつくので、夏以後に枝先をきると翌春の花が少なくなります。不要枝の剪定は下がってきた枝や弱く細くなってきた下枝などを切り詰めます。徒長して強く伸びる枝は花芽をつけないので、枝先を切ったり一番上の芽も摘んだりして、横枝を伸ばして樹勢を整えます。思い切って樹形を変えたり、樹高を切り下げたりする場合は3月から4月に太い枝や幹のところまで切りつめることもできます。



## 2. アサガオのタネまき

**Q** アサガオを子どもと一緒に育ててみたいと思います。タネをまいても芽が揃って出ません。よい方法はありませんか。

**A** アサガオは日本の情緒たっぷりな花で、世界で最も栽培が盛んですが、日本原産の植物ではなく、熱帯アジア原産の熱帯植物です。奈良時代に中国からタネを下剤として利用する薬用植物として渡来しました。花が美しいので鑑賞用として楽しまれ、江戸時代にはアサガオづくりがブームとなり、奇葉、珍花を楽しむ「変わり咲き朝顔」が今に引き継がれています。

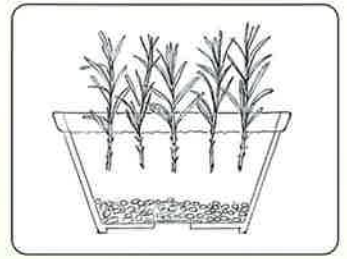
“朝顔のタネは八十八夜を過ぎてから蒔け”といわれるようにかなり地温が上がらないと芽を出にくいので、一般には5月にまきます。タネは皮が堅く厚いので、そのまままくと芽が出にくいことがあり、背面にニッパー、爪切りなどでちょっと傷をつけ、一晩水に漬けて吸水させてから深さ1.5~1.8cmにまくのが、タネまきのコツです。発芽するまで乾かさないようにします。



## 3. ローズマリーのさし木

**Q** ローズマリーをふやして、ハーブとして、ガーデニングのアクセントとしても楽しみたいと思います。良い方法はありませんか。

**A** ローズマリーは地中海沿岸地方が原産地のシソ科の常緑性低木です。香りがよいのでハーブとして料理、お茶、浴用、染色、ポプリなどに、また緑色の葉が美しいのでガーデニングの生け垣などに、使われています。ふやし方はタネまき、さし木、とり木がありますが、挿し木が簡単です。春か秋に今年伸びた若い枝を7~8cmに切り、枝の下3分の1の葉を切り除いて、2~3時間十分水あげしてから、パーミュキュライトか赤玉土(小)を入れた鉢、例えば4号鉢には7~8本ぐらいを葉と葉とが触れ合う程度にさします。さし終わったら、たっぷり水をかけ、強い直射日光や風雨の当たらない場所に置きます。20~30日後に3号鉢に鉢上げします。赤玉土(小)7、腐葉土3の配合土に植えて苗を育てます。



## 4. スパシフィラムの植え替え

**Q** スパシフィラムの子株がふえて鉢いっぱいになり、株が盛り上がってきました。鉢底からも根が出ています。どのようにしたらよいでしょう。

**A** スパシフィラムは中南米産のサトイモ科の多年草で、つやのある濃緑色の葉と白い花(苞葉)が美しい植物です。熱帯ジャングルの下に生え、高温多湿を好むとともに直射日光を嫌う植物です。

植え替えは、これから温度の上る生育適期前の5月上旬にします。根鉢の3分の1程度を切り落として古土や腐った根を除いて一回り大きな鉢に植え替えます。鉢を大きくしない場合は根鉢を2~3等分に株分けします。鉢底に排水をよくするためのゴロ土を入れて観葉植物用培養土や赤玉土6、腐葉土4の配合土などの水はけのよい土に植えます。植え替え後は10日ほど室内の明るい場所に置き、まめに霧水など与え保湿につとめます。

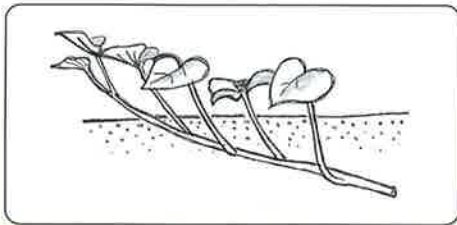


子株でいっぱいの鉢▶

## 5. サツマイモの植え付け

**Q** サツマイモを子供と一緒に作って収穫の秋を楽しみたいと思います。植え付け方法、栽培上の注意点について教えてください。

**A** サツマイモは比較的につくりやすく、病害虫に強く植え付け後の管理は除草程度です。肥沃地では、茎葉ばかり茂る「つるぼけ」になり収穫が減るので、特に前作の野菜などで肥料を多く使った畑では、チッソ肥料を控えるか、過剰に施さないようにします。植え付けは5月上旬～6月上旬にします。畝幅は50～70cm、高さ30cmくらいにして、植え付け1週間前に1㎡当たり堆肥500g、化成肥料（N-P-K=8-8-8）30g、草木灰100gを施します。苗は長さ25～30cmで、茎が太く、葉が広く、厚く、葉柄の短いものがよいでしょう。一般的な方法は、畝と平行に苗の長さの溝を掘って、葉を出すようにして、茎を3～5cmの深さに植えます。



## 6. 美しい葉を楽しむコリウス

**Q** 葉の色・形が変化に富んだコリウスを楽しみたいと思います。育て方のポイントについて教えてください。

**A** 美しい葉の色のコリウスはキンランジソ、ニシキジソとも呼ばれ、赤や黄、オレンジ、緑や紫などの色や形も品種改良により多様です。原産地は熱帯アジアから熱帯アフリカのシソ科の多年草ですが、冬の寒さに弱いので日本では一年草として扱われます。タネまき、植え付けは5月に入ってからします。直射日光に当たる場所に植えてもよいですが、日陰でもよく育ちます。他の草花がうまく育たない日陰を飾るのに最適です。例えば玄関脇の飾りとして、その派手な色彩が一層明るさを増してくれます。用土は、水はけや通気性がよく、有機質の多い土を好みます。肥料は液体肥料1,000倍を10日おきに施すとよく、生育がおう盛で、切り戻しをすると再生が早い特徴があります。特に挿し芽でふやす栄養系品種は摘芯をくりかえして形を作るのが容易なので、スタンダード仕立てに向いています。さし芽は伸びている枝先3～4節をつけてさします。本格的な夏を迎える5月から育ててみませんか。

## 花ごよみ



## 花と緑の行事ほか

県立都市公園、フラワーセンターでは、4月～6月にかけて、次の催しを計画しています。

	花名	4月	5月	6月
フラワーセンター	チューリップ	●	●	
	アイスランドポピー	●	●	
	サルビア		●	●
	アゲラタム		●	●
	トレニア			●
	ベチュニア			●
甲山森林公園	サトザクラ	●	●	
	コバノミツバツツジ	●	●	
	モチツツジ	●	●	
	マルバアオダモ	●	●	
一庫公園	コバノミツバツツジ	●	●	
	コバノガマズミ	●	●	
赤穂海浜公園	キンシバイ		●	●
	ヒラドツツジ		●	●
西猪名公園	ソメイヨシノ	●		
	ハナミズキ	●	●	
北播磨余暇村公園	バラ		●	●
	サクラ	●	●	
西武庫公園	バラ		●	●
	シバザクラ	●	●	
有馬富士公園	コバノミツバツツジ	●	●	
	ヤマボウシ		●	●
	ソメイヨシノ	●		
明石公園	バラ		●	●
	ユリノキ		●	●
	ソメイヨシノ	●		

4月		
フラワーセンター	チューリップ300品種30万本の夢花彩	～5/8
	ひょうご県産春の草花展	4/19～5/13
赤穂海浜公園	ハンギングバスケットを使った寄せ植え	4/11
有馬富士公園	ハンギングバスケットを使った寄せ植え	4/20
播磨中央公園	さくらまつり	～4/15
5月		
フラワーセンター	セッコク祭り	5/18～20
	全日本阜月会さつき展	5/24～29
赤穂海浜公園	春を楽しむ山野草の苔玉づくり	5/9
有馬富士公園	春を楽しむ山野草の苔玉づくり	5/18
播磨中央公園	新緑のまつり	5/3～5/5
6月		
フラワーセンター	初夏の山野草とウオウラン展	6/7～19
赤穂海浜公園	夏の玄関を飾る寄せ植え	6/13
有馬富士公園	夏の玄関を飾る寄せ植え	6/15

(※日程・内容については変更することがあります。)

平成19年

## 4～6月 園芸教室のご案内

## 一般講座

1 講座だけでも受けられます。事前申し込み必要。受講料は1回100円。  
日程・申し込み受付開始日は変更になることがあります。

NO.	日程	課題名・内容	講師名	申込開始日
1	4/13 金	春の草花と夏花壇 (内容) 最近人気のある春まき草花の種類・作り方、家庭での春・夏花壇作り	小山 重示	4/6
2	4/20 金	春・夏野菜の作り方 (内容) 春～夏用の野菜の作り方と年間作付け体系	岩本 政美	4/13
3	4/27 金	鉢花の育て方 (内容) クラウン・シロバネ等鉢花の育て方と殖やし方	高田 正	4/20
4	4/28 土	野草ウォッチング(春) (内容) 春の野の花を観察・写生することで野草に親しむ	奥山佐企子	4/21
5	4/29 日	森で遊ぼう! 春 ※小学生と保護者対象 (内容) テーマは草原。ワークショップ型で遊びながら学ぶ	西森由美子	4/22
6	5/9 水	アサガオの「あんどんづくり」 (内容) あさがお展と連携したアサガオの育て方	原 忠敏	5/2
7	5/19 土	洋花の寄せ植え実習(春) ※材料費2,000円必要 (内容) 春を彩る洋花の寄せ植えを作る	フラワー	5/5
8	5/25 金	洋ランの育て方 (内容) コケラン、ソレシウム、オシロイバナ等代表的な洋ランの育て方	山田 益男	5/18
9	6/6 水	庭木管理(マツと生け垣) (内容) マツのみどり摘み・その後の手入れと生け垣の刈り込み管理法	原 忠敏	5/30
10	6/22 金	ハーブの利用法(ラベンダー) (内容) ラベンダーを主としたハーブの作り方と利用法	澤田美代治	6/15

基礎講座・園芸コース(全4回) ※4回連続受講のみ受付ます。受講料は4回一括800円。

NO.	日程	課題名・内容	講師名	申込開始日
1	4/15 日	園芸病虫害防除と薬剤使用法 (内容) 害虫・病気の見つけ方と発生生態、及び薬剤防除法と非薬剤防除法	神納 浄	4/8

専門講座・実技コース(全4回) ※4回連続受講のみ受付ます。受講料は4回一括800円。

NO.	日程	課題名・内容	講師名	申込開始日
1	5/27 日	生け垣の管理 (内容) 生け垣の刈り込み実習	佐藤 博司	5/20
2	6/24 日	庭木の剪定・整枝 (内容) 時期別・開花タイプ別樹木の剪定・整枝法実習		

## 参加型講座

※事前申し込み必要。参加は無料です。材料は相談所で用意。

NO.	日程	課題名・内容	講師名	申込開始日
1	5/13 日	新緑の花を描こう! 展 (内容) 新緑の花の写生を通じて季節の変化を学ぶ。作品を展示する。	松井 安由	5/6
2	5/20 日	絵手紙を描く(春) (内容) 春の植物を絵手紙に描くことで植物に親しむ。作品を展示する。	岸野二三子	5/13
3	6/10 日	園芸教室参加者意見交換会(春) (内容) 園芸教室の「あり方」について自由に意見交換していただく。	岸野二三子	6/3
4	6/17 日	樹木を写そう作品展(初夏) (内容) 明石公園内で初夏の樹木を撮影しその作品を展示する。	田中 克朋	6/10

## 兵庫県 緑の相談所

■業務日・時間 毎日9:00～17:00(火曜日及び12/29～1/3を除く)  
Eメール: info\_midori@hyogopark.com

●写真提供: 田中 克朋

## ■主な業務内容

- 1 花と緑についての相談
- 2 園芸教室
- 3 花の苗販売 毎週土・日曜日  
【販売時間】13:00～15:30 【場所】相談所ロビー
- 4 シードバンク 毎月第2及び第4土・日曜日  
【交換会の時間】13:00～15:30 【場所】相談所ロビー

8号(2007年3月発行・年4回)

(財)兵庫県園芸・公園協会 緑の相談所  
〒673-0847 明石市明石公園1-27  
TEL/FAX.(078)918-2405